

平成27年度第12回（第25回）3市共同資源物処理施設整備地域連絡協議会会議録

○日 時 平成28年1月31日（日）午後6時00分～8時20分

○場 所 小平・村山・大和衛生組合 3階 大会議室

○委 員

（1）自治会・マンション管理組合等 以下のとおり（17名）

自治会・管理組合名	代表者	専任者
プラウド地区自治会	飯島 晃	増田（代理）
栄一丁目自治会	—	町田雄治
栄三丁目自治会	田中正明	岡田正嗣
末広二丁目親交会	坂下 茂	—
日神パレステージ東大和桜が丘管理組合	—	後藤隆康
グランスティツ玉川上水管理組合	川崎（代理）	—
クロスフォート玉川上水管理組合	長谷部（代理）	山崎 武
グランドメゾン玉川上水ウエストスクエア管理組合	坂本長生	—
グランドメゾン玉川上水センタースクエア管理組合	山本隆司	森口恵美子
グランドメゾン玉川上水イーストスクエア管理組合	—	相内 章
グランドメゾン玉川上水ノーススクエア管理組合	邑上良一	阿部建二
グランスイート玉川上水管理組合	—	斉藤理憲

（2）3市・衛生組合 以下のとおり

区 分	出 席 者	
組 織 市	小 平 市	白倉資源循環課長
	東 大 和 市	松本ごみ対策課長
	武蔵村山市	有山ごみ対策課長
小平・村山・大和衛生組合	木村計画課長・片山事務局参事	

○事務局

小平・村山・大和衛生組合	管家計画課主査・里見計画課主査・小島業務課主任
--------------	-------------------------

○出席者

区 分	出 席 者	
組 織 市	小 平 市	岡村環境部長
	東 大 和 市	田口環境部長
	武蔵村山市	佐野協働推進部環境担当部長
小平・村山・大和衛生組合	村上事務局長	

〈会議内容〉

【邑上会長】

お忙しいところ、皆さん、すみません。時刻になりましたので、本日の連絡協議会を始めたいと思います。最初に事務局から連絡と確認をお願いします。

【木村課長】

お忙しい中、お集まりをいただきましてありがとうございます。

最初に資料の確認をさせていただきます。3市共同資源物処理施設の立地と必要性に関する資料ということで、次第の次に配付させていただいております。また、12月に配付をいたしました資料のところなんですけれども、人口の部分に訂正がございまして、年度を誤って記載しております。人口の部分のみ訂正をさせていただいたものを修正版ということで配付させていただいております。また、本日の開催通知に同封をさせていただいたと思いますが、グラフのほうを使って行いたいと思いますので、よろしく願いいたします。

また、前回の会議のときに、これらを今日は中心にということなんです。初めに2つの計画案の修正点について、若干説明をということでしたので、少しお時間をいただきまして、ご説明をさせていただきたいと思います。本日も各市の担当部長が出席しておりますので、よろしく願いいたします。

また本日は、終了時間を8時としておりますので、よろしく願いいたします。本日も、板書のほうを岡田さんのほうでよろしく願いいたします。以上です。

【邑上会長】

では、最初にお話ありましたけれども、計画案から計画への修正点、変更点があれば、そこをまず簡単に説明していただくということになっていますので、それをお願いします。

【木村課長】

それでは、若干お時間をいただきたいと思います。計画案のほう、まず資源物のほうですけれども、修正をする箇所でございますが、計画の中に、施設の高さにつきまして、図面で本編の47ページから図面があるんですけれども、そちらに記載をさせていただきますが、今後プラントメーカーからの提案で変わりますというような旨は記載してあるんですけれども、そこに、高さにつきましては、いろいろご意見をいただいておりますので、必要な機能を確保した上で、可能な範囲で低くすることをプラントメーカーへの提案条件とするというような旨を追加させていただきたいというふうに考えております。

また、そのほかの修正点につきましては、明らかに間違っているというところで、例えば「ア、イ、ウ、エ、オ」というのが「ア、イ、ウ、ウ、エ、オ」とかそういった二重の表記、あるいは

事業方式の名称など、ばらばらになっていた部分もございましたので、それらを統一するという
ことで文言の整理をさせていただきたいというふうに考えております。

また、不燃粗大ごみ処理施設のほうにつきましては、幾つか表を記載させていただいておりま
すが、この表の記載もばらばらであった部分がありましたので、表の形式を統一をさせていただ
きたいと思っております。

それから、資源物処理施設と同様ですけれども、事業方式の名称を、これらが少し違っている
部分がありましたので、それらの統一をすることなど、同じく文言の整理をしたいというふうに
考えております。したがって、大きな修正というところでは、資源物処理施設の高さの部分
について少し追加をさせていただくというのが修正をしたいというふうに考えております。

簡単ではございますが、以上でございます。

【邑上会長】

今のことについて？

【森口専任者】

センタースクエアの森口です。今のところしか直らないということでしたが、条例とかそうい
うのに関して、市議会の議員全員協議会でも出ていたと思うんですけど、例えば公害条例とか、
そういうのに対してどうだというページがあったと思うんですが、それが不燃粗大ごみ施設と資
源物施設のほうに関しては随分規制が違って、不燃物施設のほうが厳しい規制がかかっているん
ですよ。それを同じにさせていただきませんかということをも分市民説明会でも出たと思いますし、
議員全員協議会で東大和のほうで実川議員からも確かそういうお願いが出ていたと思うんですが、
そういう点についての見直しは全然ないんですか。

【木村課長】

ただいまのご質問、市民説明会の際にもございました。これは、そのときにもお答えしてお
りますけれども、その用途地域が違うということで、それぞれの地域に応じた基準というものが
ありますので、そちらに合わせて計画のほうもつくっておりますので、特に変更する予定はない
です。以上です。

【森口専任者】

より周りに東大和のほう住宅が多くても、そういう用途地域が違うからということでのち
らの不燃粗大ごみ施設のほうに厳しい規定の上でやって、資源物処理施設のほうは規制が甘いこ
とで通すということでした。

【邑上会長】

ほかに変更点などに関して、あまりこの時間帯では今の計画案から計画になるところについて

は、あまり深くやる予定ではないんですけれども、何かほかにありますか。前回のときに、基本的にはあのまま案がとれて進んでいくという話で、今さっきの説明だと当然誤字などは直すし、一部高さについての記載をちょっと変更するということでしたので、前回の説明内容とは基本的に変わらないかなと思っていますけれども、いいというのは、納得いく、いかないとかじゃなくてですよ。

それでは、まず修正版ということで資料が配付されている、3市の廃棄物排出量の実績と予測、この資料をもとに、3市の廃棄物の予測について説明をそれぞれさせていただきます。

【木村課長】

すいません、資料、今日修正版というふうにお送りしております。12月12日に配付をした資料でございます。そのときは人口の部分が訂正をしておりますので、ご承知おきください。

では、各市から施策についての説明をしていただきたいと思いますので、よろしく願います。

【白倉課長】

小平市の白倉です。そうしましたら、3ページのほうをご覧くださいと思います。小平市の廃棄物の予測量と施策ということでございます。小平市の実施する施策としましては、現在大きく5点を行っているところでございます。1点目は3Rの推進・適正処理による意識の向上、2点目としては生ごみの減量、3点目としては容器包装プラスチックの資源化の推進、4点目としまして、適正な処理の維持・向上に向けた処理体制の整備、5点目として家庭ごみの有料化・戸別収集への移行ということでございます。こちらのほうの将来予測としましては、やはり小平市のほうで一番大きい施策になりますのが、今後の家庭ごみの有料化及び戸別収集への移行というのが一番大きな施策となってまいります。予測値のほうで大きく変わってきますのが、平成30年度から31年度のところ。容リプラですね、上から6段目のところになりましょうか。こちらのほうが平成30年度は556トンというふうに見込んでいるところが平成31年度に資源物処理施設のほうができるということで、2,117トンに増えるということで、大きく見込んでいるところでございます。簡単ですが、以上でございます。

【松本課長】

すいません、東大和市のを申し上げます。東大和市、今一般廃棄物処理基本計画、こちらが平成29年度までということで計画を作成しておりますので、そこから抜粋した形にはなっております。大きく今後の主な施策ということで、3点ほど区分分けしております。1番といたしまして、発生・排出抑制対策、それと2番目といたしまして、適正処理の推進、そして3番目として市民・事業者への情報提供というふうに大きく3つに分けています。こちらにそれぞれ項目ごと

に「主な施策」ということで書かせていただいているんですが、太字の斜めの記載になっているもの、こちらについては、既に実施が一定程度もうなされているということで記載のほうをしています。具体的には、家庭廃棄物有料化の導入、事業系一般廃棄物の自己処理の推進、不用食器のリサイクル、こちらについては主にベースができて上がっているということになっています。

2番目へいきまして、雑紙分別の徹底、こちらについても一定のルールができたかなと思ってます。具体的には昨年11月に廃棄物広報誌を個別で配布させていただいた際に、雑紙袋入れというところで大きくPRしているところですので、これについては、引き続き継続したいというふうに思っております。

3番目で実施済みなのが、今も申し上げたところではあるんですけども、昨年11月に発行しました廃棄物広報誌「ごろすけだより」、こちらのほうを年2回程度定期発行をしていこうと思っております。普通の明朝体で書いてある1番目でいきますと、生ごみ資源化の検討と書いてあるんですが、生ごみ資源化は一部では実施はしているんですが、今なかなか伸びていないというところがございます。次の剪定枝の資源回収、こちらも、今、農家さんからの剪定枝に限定した形で受け入れて、チップ化をして利用させていただいているということで、家庭から出るものまで今はそのルートができていないというところがございます。あと金属製品の資源回収、こちらも現在は空き缶というところで限定して市のほうでは回収していますので、これら生ごみの資源化と剪定枝、そして金属製品の資源回収、こちらが残った期間の中でなるべく広めていきたいというふうに考えております。

2番の民間回収ルートの拡大ということで、こちらもある意味一部達成という形では考えているんですが、26年の8月から回収方法を変更しています。具体的には、飲料容器関係が毎週1回あった回収が月に2回に回数を落としています。その関係で、下の段の、今、ペットボトルというところが27年度には、221トンというところで200トン台で推移しているんですが、こちらがすいません、予測値と書きながら、今年度見込みでもしかすると200トンを超えるかなというところまで今いっている状況にあります。なので、ちょっとこの辺もうちょっと見ていくことで、かなりペットボトルの回収量、行政回収については減るだろうというふうに見ております。

それと3番ですね。ホームページの充実、徐々に変えてはいるんですが、もう少し情報の提供をより充実していきたいと思っております、いろんな形でちょっと情報が入れやすい、いろんな手法ももう少し検討をしたいというところで今詰めているところであります。それと出前説明会の充実なんですけど、これは実質うちの市は土日夜間問わず、極力お受けをしているので、これについては引き続き継続をしていきたいというふうには思っています。そんなところで、最終的

にはごみの発生量については、今よりも落としていきたいというふうに考えておまして、当面の目標としては、一人当たりの排出原単位というのを、今七百二十何グラム実績で持っているんですが、29年度で700グラムまで持っていきけるような、そんな形で事業実施していきたいというふうに考えております。以上です。

【有山課長】

武蔵村山市です。武蔵村山市の場合、市が実施する施策ということで5点記載させていただきました。1が発生抑制と排出抑制に関する普及啓発・支援、2点目が自主的なごみ減量に対する支援、3点目が事業者に対する要請、4点目が先ほど、小平市さんからもお話がありましたけど、家庭ごみの有料化導入の検討ということで、5点目が資源化品目の拡大ということで、生ごみ資源化モデル事業を継続して実施していくということで、特に4点目の有料化の導入の検討というのが、これが減量には一番大きいものに占めるかと考えております。

【木村課長】

すいません。もう一度修正したところを説明をさせていただきます。12月に最初にお配りしたときの内容ですけれども、3市地域全体のもの、それから小平市が1ページにあります。2ページに東大和市、武蔵村山市とありますが、3市全体のところは訂正はありませんけれども、各市の例えば小平市でいきますと人口の部分、今、24、25、26という実績の人口、修正のほうを入れているんですけれども、修正前は22、23、24の数字を人口のほうに入れてしまっておりましたので、今回24、25、26の数値に置きかえさせていただきます。

2ページ目も同様に東大和市、武蔵村山市の人口の部分、これが22から24の数値を記載しておりましたので、24から26に訂正をさせていただきました。すみませんでした。以上でございます。

【邑上会長】

ありがとうございます。今の3市のそれぞれの説明の部分で、質問等あれば、一旦ここでお受けしたいんですけれども、いかがでしょうか。

【阿部専任者】

ノーススクエアの阿部です。最近ちょっと私出れなかったんです。前、人口推計のところがちょっとおかしいんじゃないかということ指摘して、お話しさせていただいた、その後、3市それぞれの人口推計のやり方とか出てきたんですけれど、ちょっと調べたところ、国立社会保障人口問題研究会というところで、国で市町村の人口推計を出しているんですが、それだと、今が人口ピークでこれから減るといふふうに出ています。それは3市とも、どうもまだまだ増えるといふか、ほとんど減らないといふふうな推計をされていて、推計方法が基本的に同じようなんです

けれども、データも同じなんです。何でそういうふうになることになっているのかちょっと理解ができないので、何が違うんですかということをお願いさせていただきます。

インフラの基本と、つまり人口推計が基本にあると思うんですけど、そこが何か信用していいかどうかすごく怪しいというふうに見えるので。

【田口部長】

それでは、少しすいません、資料が手元にないので、概念的な形でちょっとお答えをさせていただきますと、国のほうの社人研の今お話にあったものは多分国勢調査ベース、ベースがまず違っているかと思えます。各市が定めているのは住民基本台帳ベースでありますので、どちらかという国勢調査ベースですと、住民基本台帳ベースよりも若干少なくなるような形、要するに、まず、現時点での捉え方とするとそういうふうな形です。傾向としましては、社人研がとらえているのは、多分ここで、まち・ひと・しごとの関係で、それぞれの人口推計をとられていると思うんですが、各市はそれぞれ総合計画を立てる際、ですから、今よりも数年前のところに人口推計とられていますので、その辺の次元的な違いもあるのかなと思っております。以上です。

【阿部専任者】

すいません、データとやり方、やり方は多分同じだと思うんですけど、データが違うので、全く違う答えが出てくるというのは、ちょっと説明がうまくできていないかなと思うんですが。増えるが減るの違いが何か明らかに違うのはなぜでしょうかというのが。

【田口部長】

多分その市の、東大和なら東大和のその人口推計を立てたときの数年前の動向、またより社会像ですとか、そういったところ数年の動向等を鑑みて人口推計を多分とられていると思えます。また、各市においてもその市の統計をとる、実施をする数年間の人口の推移等を見ているというふうなところになると思えます。特に社人研に関しましては、ここで全国的な人口減現象が起きているということの中で、現段階での数年前からの統計の状況の中でそういうふうな推計をしているのかなど。社人研の、ちょっと細かいところまですいません、読み込んでいないので、適切な表現になっているかどうかわかりませんが、多分そのような動きかなというふうには捉えております。

ですから、現在の東大和の総合計画の中での人口推計に基づくピークは、平成32年か33年ぐらいのピークはとっていると思うんですが、それ以降減少の傾向にはなっていますが、それが要するに少し早まっているのかなというふうなところになるかなというふうに思います。以上です。

【阿部専任者】

あまり納得はしないんですが、この辺もマンションたくさんできて、最近それで非常に増えているのを知っていますが、それが続くという仮定がされているわけですね。

【田口部長】

それだけの開発がされるということの中ではないと思いますが、その状況を鑑みているということは間違いないのかなというふうに思います。

【阿部専任者】

納得した答えは多分出ないと思うので、もう時間をとるとあれなんで、これで切りたいと思います。

【邑上会長】

邑上です。ちょっと確認して、私もわからないのを確認したいんですけども、各市のそれぞれの人口の予測値というのは、どこが予測しているのでしょうか。単純な質問なんですけど、どこがどのようにといたらいいですかね。

【片山参事】

人口につきましては、小平市については、「小平市人口推計報告書、平成24年6月」、東大和については、「東大和市人口推計業務報告書、平成23年8月」、武蔵村山については、平成32年までは「第4次長期総合計画」、それからそれ以降なかったものですから、平成33年度以降につきましては、「長期総合計画審議会資料、人口フレームについて」というのを利用しています。ですから市の基本的な、例えばごみの対策で人口予測すると、それから、福祉の関係で人口を予測すると、そういうことではなくて市で1本で予測した数値を共通して使っているということになります。

【邑上会長】

ありがとうございます。

では、今の資料の名前は正確には議事録のほうで確認させていただくということで、あと、これも今即答じゃなくていいんですけど、今のいろいろ報告書などありましたけど、それはどれぐらいのスパン、毎年なのか、3年とか5年とかなのか、そういうのもちょっとそこに書いておいていただければいいかなと。さっきから平成二十何年の資料とか言ってたじゃないですか。それが最新なのかなとちょっと気になったので、最新なのかもしれないので、5年に1回だから最新ですとかというのがわかればいいので、議事録の中でこの資料と書いてあるときにその辺を内容をちょっと追加してもらえば、今即答できないかなと思うので、後で教えていただければと思います。今のやりとりだと国勢調査の結果と市で予測している値のピークの時期がちょっとずれて

いるけれどというお話だったので、納得いったかどうか分からないですけれども、そういう説明でということですね。

【阿部専任者】

納得は無理です。

【坂本代表者】

よろしいでしょうか。

【邑上会長】

今のことでいいですか。

【坂本代表者】

ウエストスクエアの坂本です。今の阿部さんの疑問については、私も同感だと思います。田口さんのほうから説明がありましたけれども、こういう資料をつくる場合には、前回は申し上げましたけれども、きちんとした時系列分析で、昨年までに出たデータが出ているのであれば、ちゃんとそれに基づいたデータでないとだめなんですよ。20年のデータなんていって、相当昔じゃないですか。そんなの参考にならないですよ。私も人口には結構関心があったんで、人口構成等を調べてみたら、あまり東大和も一部の武蔵村山もモノレール効果があって増えはしているものの、今後はそういう増加の要因というのはあまり見えないんですよ。だから、そこら辺をやっぱりマーケティングをちゃんと勉強してからはっきりしていただきたいなど。たまたま立川の人口も見ていたんですけども、あそこはやはり今人口はどんどん集中してしまっていて、17万どれだけですか、人口は。ただ、理想的には釣り鐘型になってしまっていて、9歳以下の人口がぐんと増えてきているんですよ。ところが、今から東大和も武蔵村山もそうですけれども、逆釣り鐘型になってきていて、今後はいびつな人口構成になっていくと思うんですね。したがって、その分析も必要だとは思いますが。

最後に会長がおっしゃった、作成年度とかいうのは下に参考として、これは平成20年度に作成した資料、どここの資料をもとに作成したとか書いていただければ助かるかなと思います。

基本的には、市の人口推計なんか全く信用していませんから、私たちは。参考までに申し上げますと、二十五、六年前までは、東京都の予算というのは、中国の国家予算よりも大きかったんですよ。それがどんどん、どんどん変わって今どうなっているかというのがよくわかるでしょう。もう5年、10年のスパンでどんどん歴史は変わっていつているんですよ。今後、将来見越して、ああ、あのときあんなことやってなければよかったなというような恥ずかしいことはしたくない、私たちが出ていて皆さんそう思っていると思います。

以上です。阿部さんのおっしゃったことは非常に全うなことをおっしゃっていると思います。

やはり専門的に勉強しておかないとこういう発言できないんです。以上です。

【邑上会長】

ほかに各市の予測の話と施策について、質問等がありますかね。

【山崎専任者】

クロスフォート玉川上水の山崎です。1点目は、その資料の中に各市の廃棄物予測量の施策についてということで、それぞれ書かれていますけれども、これは当初、一般廃棄物処理基本計画、各市でつくったものがあると思うんですけれども、それに対して今回の予測をするに当たって、一般廃棄物処理基本計画の内容を変えたのかどうか。ちょっとわからなかったんで、片山さんから回答もらった中で、回答済みですというようなお答えいただいたんですけれども、そのような答えを、発言を聞いた覚えがないので、そう言われるとどこに書いてあるのかなというふうに思っているんですけど、まず1点はそれを聞かせてもらいたいですけれども、ざっと一般廃棄物処理基本計画、各市の読ませてもらいましたけれども、そこに減量政策と書いてあるんですけれども、小平市と武蔵村山市というのはまるっきり一緒なんです。その一般廃棄物処理基本計画をつくったときの減量施策に書かれている内容がここに書かれている。東大和市は若干内容が変わったものがここには書かれている。多分、一般廃棄物処理基本計画は直していないと思うんですけれども、今回の資料は基本構想でしたか、基本構想から変えているわけですよね、その減量施策をやって。

だけれども、減量施策の内容が全く変わらなくて何でその予測量が変わるのかなという疑問が1つある。そうですね。予測量見ると、人口もそうですけれども、基本構想のときとすごい量が変わっているんですよ。そこが減量施策が変わってないのになぜそんなに変わっちゃうのかなというのが1つ疑問。それをちょっとお答えいただきたいのと……。

【邑上会長】

すいません、じゃあ1回切って。もう1回確認なんですけど、その一般廃棄物基本計画というんですか？基本処理……。

【山崎専任者】

ごみゼロプランというやつですよ。

【邑上会長】

その計画があって、そこに施策が載っていますと、あとは予測量も載っていますと。予測量と
いうか、予測値は、ここに提示している値とその基本計画の値が違います？

【山崎専任者】

違っているものもあります。

【邑上会長】

違っているものもあるようですと。

【山崎専任者】

最初に基本計画でつくったその減量施策で基本構想の予測値を出しているわけじゃないですか。それに対して今回の予測値、推移というのは減量施策を見直さないと、数値が変わるわけじゃないですね。同じ施策をやっていて、それを、だから……。

【邑上会長】

もとの計画の値から、今回というか、そのごみ処理関係の計画を立てていると。この資料の予測値と基本計画の予測値が違うと。なので、ごみ処理の計画が変わるんじゃないですか、変わらないんですかということですかね。ちょっと質問の仕方が……。

【山崎専任者】

だから基本構想のときの……。

【邑上会長】

もう1回ちょっと何かすごい簡潔に説明してもらっていいですか。

【山崎専任者】

基本構想のときの予測値というのは、その各市の一般廃棄物処理基本計画のごみ減量施策をもとに計算、予測したんだと思うんですけども、今回配られた資料は、数字が変わっていますよね、その基本構想のときの予測値と。だけでも実際のごみ減量施策というのは東大和を除いて小平市、武蔵村山市というのは最初のときの一般廃棄物処理基本計画に書かれている減量施策がそのまま書いてある。だとしたら、今回の予測値は基本構想の予測値と変わらないんじゃないですかというのが質問です。

【片山参事】

基本構想の段階では、ご説明したと思うんですけども、各市の減量施策については見込んでない、回帰式、一般的なごみ量で、私どもで施設計画をつくるときに使う予測式を当てはめて数値を出しています。今回、構想から実施計画にわたるに当たって各市の施策を反映した形の数値を使っているということで、数字のとるところが違っているということです。

先ほどの人口の話もございましたけれども、組織市の人口を使う、それからまた東京都の推計を使う、それからごみだけの独自の方法で予測すると、いろいろな方法があるんですけども、今はそういう方法を選択しているということです。繰り返しになりますけれども、構想の段階では私どもがごみ廃棄物事業者、廃棄物行政として過去の例から見て回帰式で予測した数値を、それから今回の実施計画では、組織市、そうではないよと、基本計画において減量の見込みもあり

ますので、その数値を反映させると今の値になるということで、数値に差が出てくるということになります。

【山崎専任者】

地域計画を、要するに交付金の申請を行うときに、地域計画を出しているんですけども、これも議事録に書いてあった内容ですけども、要するに各市の一般廃棄物処理基本計画を反映させたものを使うと、出してほしいというような形で書かれてましたよね。それが基本構想じゃないんですか。基本構想は何にも使わないで、地域計画を出したということですか。

【片山参事】

基本構想を踏まえまして、地域計画をつくっているわけですけども、基本構想を地域計画に落とす段階で組織市はそれなりの修正、必要な修正をお願いしています。

【山崎専任者】

それは改訂になっているわけですよ。なっていないですよ、今ね。あくまでも基準は、基本は各市の一般廃棄物処理基本計画だと思うんですよ。けども、変わっていないですよ、それがつい最近も、小平市と武蔵村山市も。

【片山参事】

施策の内容が変わっていないということですよ。ですから、先ほど説明したとおり、施策の反映をしないで予測した数字で構想はつくり、構想の結果、施設をつくりますよという内容は一般廃棄物処理基本計画のほうに逆に反映させてもらっていると思うんですよ。その結果、そこは修正していると思うんです。これまでもお話ししているとおりに、計画ですとか構想をどんどん進めるに当たって確度を上げていくということで、より確からしい数字ということで、各市の今回施策も反映した形の数値を使っているということです。

【坂本代表者】

確度を上げていくってどういう意味ですか。ご説明いただけますか。今おっしゃった確度を上げていくという。

【片山参事】

だんだんより確からしい数値に近づけていこうということで考えています。

【坂本代表者】

今、最初に阿部さんの質問は、その確からしいという基本が崩れているわけですよ、実際に。だから、そこは違うのにそれをもとに推計したら、とんでもない数字になってくるんじゃないですか。要するにソリューションがないんですよ。だから、基本的なことが間違っていたら、先にいったらこんなふうに広がって誤りが広がっていくわけですよ。だから、少なくともこういう

のを皆さんに説明するためには、こうこうしかじかでこういう数字になりましたという裏づけをきちんと説明しないといけないです。その裏づけをあっちから引っ張りました、こっちから引っ張りました、国の統計によればこうなりました、だから市の統計を尊重していますといったって、それはみんな納得しないと思うんですよ。

【片山参事】

ですから、申し上げているとおり、組織市の予測した人口を用い、各市の基本計画に定める施策を反映して、原単位、一人一日当たりどのぐらいごみを出すであろうかという値を設定をして推計をしていますから、そういう意味では、前回構想の段階では一般的に過去何年に何トン出ているから、ここ先どうなるだろうという予測、それから人口も東京都人口を使ってましたから、確度は上がっていると、より実態に近い形にはなってきているというふうに思っております。

【森口専任者】

センタースクエアの森口です。山崎さんがおっしゃったことを今の質問をもう一遍、私が山崎さんが聞いたことでの理解で話したいんですけど、交付金を申請するときには、各市の基本計画を反映させたもので交付金を申請をしなければいけないということになっていて、基本構想で申請していると思うんですよ。それなのに基本構想の段階で各市のそれが全然反映されてなかったということ、片山さんはお認めになったということによろしいですか。

【片山参事】

地域計画の段階では、約何トンという施設規模を出すようになっていまして、ただ、施設をつくりますよという内容は基本計画に反映しているという状況です。

【山崎専任者】

一般廃棄物処理基本計画は反映してなくてもいいということですか。

【片山参事】

一般廃棄物処理基本計画に施設をつくりますよということは反映してもらっていますので……。

【山崎専任者】

それ以外はいいということ。

【片山参事】

それ以外は構想の段階ではつくってなかったということですね。

【山崎専任者】

いや、量とか、そういうものは、違う形でもいいということですか。とんちんかんな数字ではないでしょうけれども……。

【片山参事】

そうですね。ですからとんちんかんな数字にならないように、そのときにはそういう予測を行っているんです。そういう予測というのは東京都人口を使って過去の推移から予測するというのが、私どもの事務組合としては一般的なものですから、これまでの経験として、それを使っています。

【山崎専任者】

何かだまされたような気がしますよね。

【坂本代表者】

すいません。ついでに、坂本ですけれども、この推計というのが、多摩地区26市のごみの有料化というのをまだやってないところがありますよね。今からやろうとする、それを見込んだ上できちんと出してほしいなというのと、何で小平市と武蔵村山市はほかのほとんどがやっているようなことをまだできない、その理由というのを教えていただきたいんですけれども。

だから、そういうごみの減量化というのは、要するに有料化に伴って、大体平均的にごみが2割減っているということは、数字の上でも出ていますよね。立川市あたりに聞くと、ごみの売り上げだけでも2億5,000万位になっているという話は聞いたことがありますけれども、いわゆる、やはり皆さん有料化に伴っては、少しの痛みは感じながらも、やはり財政のために少しでも協力しようという姿勢ですので、ごみは減っていくのが普通じゃないですかね。それが何かどんどんどんどん増えているような状況になっているんですが、そこら辺もよく今、山崎さんがおっしゃったようなことで、わからない。以上です。

【片山参事】

ごみの予測というのは、基本的なことを申し上げますけれども、人口を予測して、一人一日当たり何グラムぐらい出すだろうというのを予測して、その掛け算で出すわけですね。人口はこうしました、というお話を今しました。それは信憑性がないというお話もありましたけれども、私どもではそれが一番確からしい数字だと今現時点では思っています。

それから、一人一日当たりどのぐらい出すかの予測につきましては、今回3市それぞれが目標としている、施策の結果目標としている、原単位と言うんですけれども、一人一日当たり何グラム出すであろうというのを、単に過去の例から予測したのではなく、組織市が一般廃棄物処理基本計画において、有料化もあるでしょう、それから生ごみの堆肥化の話も今ありましたけれども、そういう施策をこれからさらに加えていって減らす目標の値を使っています。ですから、前回に比べてごみ量は相当量落ちているというふうに思います。

【森口専任者】

これは何回もお聞きしていると思うんですが、武蔵村山市と小平市はいつからごみ有料化を始めるのかということについて何回もお聞きしているのにもかかわらず、今回いただいた資料にもごみ有料化をしますとは書いているものの、いつからしますということがまるっきり書かれておりません。山崎さんが昨日か何かのメールで質問を片山さんにされて、それをお聞きしたらば、既に答えていますって、既に回答済みですと書いてあるんですけど、今日いただいたものについてもいつから村山市と小平市が有料化を始めるということがはっきり書いてないんですが、何年何月から始めるのかを教えてくださいたいのと、それと今日資料としていただいているのは、12月のこの修正版の今資料のほかに1月31日のこの資料を、これも一緒に並行して見ていいですか。

【邑上会長】

いや、これはまた別で……。

【森口専任者】

別ですか。そうすると、まずいつからしているのか、いつからしていただけるのかということと、それがこの表にどこで反映されているのかというのはちょっと聞きたいです。

【片山参事】

既に答えていることだと思うんですけども、この場所は周辺地域住民の皆様に施設建設に当たって議論をお願いしている場であって、市の施策については、市民として、例えば小平であれば小平市として市民との対話の中でそれぞれの市が努力されていることですから、それを今ははっきり答えろといっても答えられないと思うんです。ただ、方向性だけは2市さんとも既にお答えしていると思いますけど。

【森口専任者】

その方向性はそのうち有料化しますよということだけですよね。有料化は一応念頭には置いていますということだけの答えを既にした回答と受け取っていいんですね。

【白倉課長】

小平市です。有料化の件につきましては、昨年、7月でしたかね、市長が来たときもちょっとお話しさせていただいたんですが、我々の現在つくっている一般廃棄物処理基本計画の中で、31年度に有料化・戸別収集等の移行をしていこうということで今考えているところです。それについては、なぜすぐにやらないんだという話もあろうかと思いますが、やはり市民の方々もいらっしゃいますし、それに伴う我々の対応の準備、どうしていこうかということも研究しなきゃいけない状況にありますので、時間のほうは31年度ということで決めさせていただいているところ

です。

【有山課長】

武蔵村山市です。こちらからもお話があったときには、こちらの市の一般廃棄物の処理基本計画の中で、平成30年を目途にということでは言っていたつもりでございます。その中でやはり導入に当たっては現状把握だとか、課題の整理とか、いろいろやらなきゃいけないことがいっぱいありますので、そういったことをまず行っていく必要があるだろうということでお話をさせていただいたと思います。

【坂本代表者】

すいません、今の2市に対してもう1回質問ですけれども……。

【邑上会長】

すいません、今の森口さんの質問でもう1つ、いつからかという話と、このごみ量の予測については、その有料化という施策が反映された量なのかという質問もあったかと思って、反映されているかされていないかということのを簡単にちょっと答えていただければ。現状、この表で反映されているかどうか。

【白倉課長】

小平市です。3ページの、先ほどちょっと触れたんですが、30年度と31年度のところを見ていただきますと、ごみの量、行政処理量という全体的なところが4万8,644トンから4万5,868トンということで、約3,000トンぐらい減るような数字で今つくらせていただいております。ここで3,000トンどうして急に減るところは、有料化等を視野に入れたところで減るというようなことで予測を出ささせていただいております。

【森口専任者】

そのところでも31年度のところの話ですね。3ページの31年の小平市のところの四万五千八百幾つというのが。

【白倉課長】

前年が4万8,000なので31年が4万5,000なので、そこが有料化等へ移行することによって、3,000トン近く減るだろうと。

【森口専任者】

これ、1,400トンぐらいはプラスチックを燃さなくなることになってですね。そうするとプラスチックのほうが、容リプラのほうが1,500トンぐらい隣と合わせて増えているんで、そうすると3,000トンぐらい減っていったとしても可燃ごみ施設の20パーセントにはいきませんね。それしか減らないのか。

【白倉課長】

すいません。ちょっと私の説明がわかりにくかったかと思うんですが、その今、予測の下の原単位というところがありまして、原単位の合計というところがあります。これは一人当たりの出す量なんですけれども、これが30年度は738.4、31年度が696.5ということで、普通通常で一人当たりの量が約40グラムですかね、そのぐらい大きく減るだろうということで考えています。40だとどのぐらいですかね、1日1割までいかないですかね。

【有山課長】

武蔵村山市です。5ページのほうになりますけど、今と同じ原単位のところ見ていただくと、30年、31年、下がっていくというようなことで、これが有料化を導入した場合に反映されるだろうというようなことです。ただ、人口は市の場合推計値がまだ右肩上がりです上がっている数字ですので、相対的にその行政ごみ量というのが極端に目に見えて減っていくということではちょっとないのかなと、はい。

【坂本代表者】

すいません。武蔵村山市も小平市も有料化に関するロードマップは既につくってるんですか。

どこでも2年ぐらいのスパンで検討して、2年後ぐらいに移行していますよね。多摩、ちょっと何市も聞いてみたんですけれども、大体ロードマップをつくって2年ぐらいで実施しましたというのがほとんどです。であれば何で31年まで待たないといけないのかなと。東京都市長会の決議では、平成15年にごみの有料化を全市でやるというのが決まっているんですよ、議事録にも載っていますよ。それを31年といたら16年後ですよ。もうほとんど一昨年あたりで東大和市を除いた20市以上がもう既に取り組んでいるんですよ。もう実績出ているからそういうのを考えれば、ごみの有料化にして平均に2割ぐらいは減量化できていますというのは、それはやっている各市は胸を張って言いますよ。やってないで、こういうのを出すこと自体がどうもおかしい。やはりロードマップができてますかというのをちょっとお聞きしたいんですけれども。

【白倉課長】

ロードマップというのは、全体的なスケジュールということを指しているのでしょうか。

【坂本代表者】

有料化に関するロードマップってさっきから。

【白倉課長】

我々のほうとしましては、やはり有料化等については、市の施策でございますので、最終的な決定というのがまだ市のほうではしておりません。あくまでも繰り返しのなっておりますが、基本計画の中で31年度にしていくということでございます。我々のほうとしましては、31年

度、基本計画は31年度になっておりますので、31年度に実際にやる場合を想定しながら、今その全体スケジュールとか、そういうところの準備は検討しているという段階でございます。

【坂本代表者】

できてないということですね。

【森口専任者】

ほかにも質問していいですか。

【邑上会長】

この内容？

【森口専任者】

はい。今、31年度から廃プラ施設ができるということで、小平市さんの容リプラが増えて、資源化が進むということだったんですけども、今、これを全部見ていると31年度で増えているところは小平市さんのこれだけで、今までも廃プラ施設ができて資源化が進む量について、1,600トンだけですねという確認をしていましたが、この表を見て改めて資源物として資源化が進む量は、資源物処理施設ができて小平市さんのこの増えた量の、約1,500トンだけということよろしいんですね。

【片山参事】

森口さん、どの表ですか。

【森口専任者】

3ページです。3ページの小平市さんの30年度が容リプラが556トン、31年度が2,117トン、それで、今31年度から廃プラ施設が稼働すればプラスチックの分別収集を始めて、こちらに移行されるということでお話をいただきました。それで今までプラスチック、資源化を進めるというのはこの資源化事業だと思うんですけど、今までもプラスチックにしても容リプラにしても資源化はされています。資源化されていないものではありません。資源化されていなかったのは小平市さんの軟プラの1,600トンだけですねということは何度も確認していましたが、資源物処理施設ができて、焼却施設に搬入される量が減ったものはこの差のトン数、今、同じ年度の差じゃないんで、隣の年度とするのでその年度のものがどれぐらいになるかわからないんですけど、大体、引いてみても約1,500トンぐらいのものがこの焼却炉に持ち込まれないで、資源物処理施設に運ばれ、資源化されると。資源化される量が増えたのは1,500トンだけということの確認で、数字の確認をしました。

【片山参事】

増える量はこのとおりです。だけど、「だけ」じゃなくて、「も」です。

【森口専任者】

「も」。じゃあ、その「も」のほかに何が資源化されて進んだのか、何が……。

【片山参事】

1,500トンも1,600トンも資源化されるという認識でいますけれども。1,600トンだけじゃなくて、非常に大きな数字だというふうに考えていますが。

【森口専任者】

そこは認識の差があると思いますが。

【山崎専任者】

量は多いんですけど、パーセンテージは低いんですよ。5パーセント以下ですからね、3パーセントくらいですからね。関連で質問を。

今、小平市が今までずっと説明の中で軟質プラを焼却していますよ、1,600トンぐらいという話を聞いていましたけれども、私はその軟質プラがどのぐらい入っているのかなということで、これもちょっと片山さんのほうに質問しました。どうも答えを見ると今まで説明してきたことが全く違っているようなんですよ。軟質プラは焼却している、硬質プラは全て小平市のリサイクルセンターでリサイクルしているというお話でした。でも、回答いただくと、いただいた内容を見ると組成分析をやってその結果から推測しているという回答をいただきました。内容としては小平市の回答ですから、片山さんが書いてくださったやつだと思うんですけども、小平市の容リプラの潜在量はごみ組成分析調査結果より、可燃ごみ全体の0.9パーセントが硬質プラスチック等、4.3パーセントが軟質プラスチック等、不燃ごみ全体の19.2パーセントが硬質プラスチック等、6.3パーセントが軟質プラスチック等と想定し、その50パーセントを移行量として設定していますということですよ。今までの説明だと軟質プラしか燃やしてないよという話だったんですけども、どうも見ると半分ぐらい硬質プラが入っちゃっているんですね。今までの説明は違っていたんですかね。

【片山参事】

おっしゃっている意味がよくわからないんですけど。

【山崎専任者】

軟質プラは燃やしていますよというお話でしたよね。

【片山参事】

ええ。

【山崎専任者】

だけれども、これを、組成分析の結果を見ると、硬質プラも燃やしちゃっているわけでしょう。

【片山参事】

燃やしていますね、最終的にはね。

【山崎専任者】

全然違うんですね、まず確認です。

【片山参事】

硬質プラは燃やしていないという発言をしたでしょうか、私。

【山崎専任者】

いや、私かどうかはわかりませんが。

【片山参事】

硬質プラは燃やしていないという話はしていないと思うんですけど。今、軟質プラの話ですよ。

【山崎専任者】

軟質プラは燃やしていますよという発言はされています。けども、それ以外、軟質プラはリサイクルはできていないって発言されているということは、硬質プラはできていると。今現在できていない……。

【片山参事】

硬質プラはできていると言っていない。硬質プラの一部はやっていますよね、分別で小平市さんは。

【山崎専任者】

話が違うんですね。

【片山参事】

いや、ですから全部やりたくてもやはり汚れたものとか汚れが落ちないもの、それから、市民の協力度合いによっては入ってくる量が違いますから、その移行量を50パーセントと見たと、こうしているわけですよ。

【山崎専任者】

それは約この移行量50パーセント、あそうですか、認識の違いとか解釈の違いとかわからないですけども、今まで、ずっと住民説明会だとかが始まって、協議会の中でも確認をしていますけれども、軟質プラは燃やしている。けども、硬質プラはリサイクルしているよという認識でいるんですけども。

【片山参事】

おっしゃるとおりそういう話はしたと思います。ただ、硬質プラについて、軟質プラも同様に

すよ、その他の資源も同様ですけども、含有量の全てが資源化されたり焼却されたりということ
はできないわけなんです。それは何回も繰り返しになりますけど、プラスチックですから汚れた
ものとか汚れが落ちないもの、それから、何よりも市民の協力の度合いによって可燃のものを
不燃に入れちゃったり、不燃のものを可燃に入れちゃったり、資源のものをゴミとして出したり
という方がどうしてもいらっしゃるんですよ。ですから、完全にそういう状態にはならないと。

【山崎専任者】

その汚れたものとかというのは50パーセントに入っているんですか、確認はできているん
ですか。要は組成分析した中で50パーセント移行するということは、半分は汚れているというこ
とですよ。

【片山参事】

いやいや、そうじゃないです、汚れているからということじゃなくて資源になるものであつて
も、例えばきれいなペットボトルであつても可燃ごみに入れてしまったり、不燃ごみに入れてし
まったりする方がどうしてもいらっしゃるんですよ。

【山崎専任者】

だから、汚れているわけでしょう。

【片山参事】

いやいや、汚れていなくても。

【山崎専任者】

ああ、間違っただけ。

【片山参事】

だから、協力の度合いによって、そういうものを見込まなくちゃならないんですね、どうして
もこれは残念なんですけど。

【山崎専任者】

その数字がすごく信頼度が低いというか、1,500トンとか1,600トンと言っている数字
が、実際に本当にその数字に近い数字なのかと、ちょっと疑問なんですよ。

【片山参事】

こんなことを言っちゃあれですけども、よそさんの視察に行ったときにこのぐらい市民が協
力してくれるだろうということで施設をつくったけれども、実際にごみや資源が集まらなくて操
業がなかなかうまくいかなかったという例は聞いたことがあります。ただ、その啓発をしっかり
やっていくことで3年ぐらいでは資源として出してくれるようになって、資源化が今はうまくい
っていますという説明を受けたことがあります。大事なものは市民への理解を深めて、しっかり分

別をしてもらおうということだと思えるんですけども、なかなか切りかえ、例えば10月からやります、4月からやります、その段階で180度変わるわけですから、今は可燃ごみに入れていたのが資源になるわけですから、なかなかそこがすぐにはいかないんじゃないかなと思います。ちょっと余談でしたけれども。

【坂本代表者】

今、片山さんがおっしゃったのは半分は正しいと思うんですよ。というのはプラスチックごみの総排出量のうちの半分くらいはおそらく汚れていたりして、可燃ごみに出していると思うんです、分別した上でも。それはもう統計的に出ていますから。だから、そういう意味で半分、総排出量の半分はプラスチックごみとして回収しているんじゃないかなと。

今、山崎さんがおっしゃっていた硬質プラスチックというのは山崎さんのおっしゃるように、私も認識しておりました。だから、リサイクルのプラスチックじゃなくて、そういう分別を小平市ではしているんだなという認識でした。確かにプラスチックというのはプラごみは何でもプラスチック製品というのは表示するようになっていきますから、例えば納豆のからしの表示だってプラと書いてあるし、しょうゆだれだってプラと書いてあるし、いっぱいプラと書いていないものはないくらいですよ。そういうのをリサイクルするとしたらコストだけぼんぼんぼんぼん上がって、要するに専門家の間でもリサイクルすればするほど、コストの面で財政を毀損すると、財政支出が物すごく大きくなるという意味でサーマルとかにみんな移行しているわけですよ。環境省もその意見に立ってサーマルの場合には発電、焼却施設の場合にはインセンティブを設けて半分以上を補助しましょう、そのほかについては3分の1ということになっているじゃないですか。認識としては片山さんがおっしゃっているのは半分は合っているけれども、半分は合っていないと。以上です。

【邑上会長】

邑上です。質問があります。それぞれの3市の施策ですね、東大和市、市民だからではないんですけども、民間回収ルート拡大ということが書かれて非常によいと思うんですけども、ほかの2市についてはそういう言葉が入っていないんですけども、何か意図があるのか、特にやる予定がないのか、どういうことなのかをちょっと知りたいんですが、そういう民間回収を活用していくということは検討されているのか、2市の方にお聞きしたいんですけども。

【白倉課長】

小平市でございます。民間回収という話ですが、我々のほうとしても店頭回収ですね、ストアとかにあるペットボトルとかトレイとかの回収、そういうものについては、ここには載せておりませんが、今後もそういうストア等に働きかけをして、積極的に回収してほしいということでは

考えております。

【有山課長】

武蔵村山市です。文言の中にはありませんけど、今、小平市さんが言われたように、店頭回収を民間企業、シルバー人材センターといった団体をお願いしていくという形です。

【邑上会長】

ありがとうございます。なぜこういう質問をしたかといいますと、この間の市民への説明会などでも、ほかの市の方からも要望というか、質問がありましたけれども、そのごみを減らすということに対して何か積極的な施策を打っているんですかという中にその民間の話とかもありましたので、あまり強い施策、強い意気込みみたいなのが感じられなかったもので、その点、東大和市は実施してやろうというふうに書いてあるので、これはやっていると言えるなと思ったので、ちょっと気になりましたので質問させていただきました。回答としてはやっていきます、進めていきますということですので、そこは大きくアピールしていくことと、それを見込んでごみ量の削減につなげていくことが必要じゃないかなと思いますので、その点は今後反映していただければいいかなと思います。

【山崎専任者】

先ほどから軟質プラスチックのことでいろいろ質問させていただきましたけども、もう1点、これは小平市の一般廃棄物処理基本計画の14ページ、プラスチック容器の分別の推進というところがあるんですが、これは平成26年3月の初版に書かれていたものなんですけども、「現在、プラスチック製の廃棄物については、下図のとおり、ラップ、ビニールや包装類等の軟質のものは『燃えるごみ』とし、硬質のものうち、ボトル類、カップ型容器等の容器包装プラスチックで、きれいなものは『プラスチック容器』として分別収集・資源化をするなどの分別区分となっています」と書いてあります。「ごみ組成分析調査の結果、分別収集の対象となっている硬質の『プラスチック容器』の7割以上がごみとして捨てられていると推計されます」と書いてあるんですけども、このプラスチック容器の7割以上というのはどういうことなんですかね。全体の7割なのか、それともよくわからないんですが、これは26年3月なので、今、小平市でも課長はまだいらっしゃらなかったんですかね、というのがよくわからないんです。7割も出ちゃっていると、私が推測するには残りの3割だけを小平市のリサイクルセンターで処理しているのかなと推測したんですけども、そういうことでいいですかね。だとすると1,200トン近くがごみとして出しているという計算になっちゃうんですけども。

【白倉課長】

すいません、今、それに対して確かに私、この当時つくったものでないので内容は確認できて

いないので、改めて確認した上で回答させてもらえればと思います。

【岡村部長】

細かい資料が手元にないので概念的なことでお答えしますが、基本的にプラスチック自体は不燃物という意識が強く、不燃物のほうに混入していることが多いのではないかとこのように思っています。今、小平市では軟質系プラスチックと、プラスチックといっても硬質、軟質とありますけれども、市民の皆さんの認識からすれば、その区別というのはなかなか難しいと思うんですね。その啓発等はしていますけれども、なかなかそれが徹底できていないということはあると思います。したがって、硬質系のプラスチックの容器包装系についてはリサイクルするという資源として出してもらう形のことをしていますが、現状としては軟質系のプラスチックが資源という扱いは今はできていませんので、それについては可燃ごみということですが、プラスチックという印象から可燃という印象がなくて不燃に入る場合があると思います。

したがって、表を見ていただければわかるように、小平市の場合は可燃ごみについては一人当たりは東大和市や武蔵村山市よりも出している排出量は少ないと思います。しかし、不燃物と資源のプラスチック、容器包装のところで分別ができない状況にありますので、リサイクルセンターの処理量の関係で、したがって、全体のところは多くなっているという現状があります。そういうことで、今、山崎さんがおっしゃったように、現状はそういうリサイクルの区分をお願いしていても現状としてはそういう形で可燃物や不燃物のほうに混入しているものが多くなっているということは、組成分析から分析しているということでございます。したがって、私どもが31年度から有料化というのは、30年度に3市の資源物処理施設ができますから、そうなるとその部分の資源リサイクルの徹底ができるというふうに考えていまして、その際に有料化をあわせてやるということを以前から説明をさせていただいているということでございます。

【山崎専任者】

ありがとうございます。そうしますと実際7割は不燃物に出ちゃっているということでもいいですかね、でいいですか。そうするとかなりの量ですね。そうするとこの前の質問で組成分析で年間1,500だとか何とかという数じゃおさまらないですね。大丈夫ですかね。合わないんですよ、その言っている数字とこの同じ組成分析をやっている数字が合わないじゃないですか。7割もごみで出しちゃったら1,200トンぐらいになるんですよ、それだけで。それ以外に軟質プラスチックも出しているわけでしょう。そうすると、それが全てがきれいなものかどうかわかりませんが、それが仮に31年度に資源化施設ができて、搬入されたときに本当に小平市の軟質プラスチックと呼ばれて燃やしていたものが本当に1,500トンぐらいで済むのかどうかというのが疑問なんですよ。

さらに言うと、ここには軟質プラスチックも本来可燃ですけれども、300トンが不燃に入っていると書いてあるんです。これは組成分析の結果ですから、これはいつの組成分析なんですかね。それをいつやって、そういうデータなのか、それから、25、26、27年はまだ途中ですけれども、その割合がどうやって変化しているのか、ちょっと聞きたいですね。同じあれだって全く変わらないですごい量になっちゃうような気がするんですよ。今まで説明してきたことと全く話が違うので、データ自体が信憑性が非常に低くなるんじゃないか。予測は予測でいいですけど、1,500トンぐらい軟質プラが出るんだよと。実際にもし仮にできるかどうかわかりませんが、資源物処理施設が稼働して、はい、持ち込みました。そうしたら3,600トンぐらいですか、だったのが5,000トンぐらいいっちゃう可能性もあるわけですよ。そこはしっかりやらないと、もしこういう計画をつくること自体でベースになるものがしっかりとした信頼性のあるものじゃなかったら、幾らつくったって、ああ、実際できませんでしたという可能性もなきにしもあらずですよ。だから、その数字だけはしっかり分析して、説明してもらいたいですね。

というのは先ほども岡村部長も言いましたけれども、本当に不燃物ってこんなグラフなんですよ。これは青いのが小平市、ずっとてっぺん走っています。一人当たりの量、少ないときでも年間19.6キログラム。低いところだと9.8、ちょうど半分です。こういう数字自体が要は先ほど岡村部長が言われたように、硬質プラだとか何かが不燃物に入っちゃっていたんじゃないのかなという気がするんですよ。実際東大和市が平成21年から資源化を民間委託しましたけれども、その前の20年以降はすごい不燃物、確か不燃物で処理していたと思うんですけども、一人当たりがすごい量なんですよ、40幾つとか。21年に民間委託したら10幾つまで下がっているんです。小平市の場合は計算上は4分の1ぐらいはリサイクルセンターで処理していますから、そこまでいかないとは思うんですけども、傾向としてすごく似ているんですよ。結論として言うと、かなり実際のプラスチックの量が多いんじゃないかなというのは推測です。わかりません、実際のところは。以上です。

【片山参事】

私どもは一応データをお示しして、一番確からしい数字だと出していますが、多いとか抽象的に少ないとか言われてもわからないので、5,000トンとおっしゃられましたよね。5,000トンの根拠は。

【山崎専任者】

根拠はないですよ。

【片山参事】

根拠なくて5,000トンだから低いというんですか。それじゃあ、ちょっと話が同じレベルに

ならないと思うので、私どもは千数百トン増えるだろうと予測しているんですよ。それが多ければ、具体的にどういう結果にのって多いのかと示していただかないと。

【山崎専任者】

だから70パーセントと言っているじゃないですか。

【片山参事】

今までは70パーセントだというお話でしたよね。それを50パーセントに引き上げようというお話を、今、私のほうで説明しましたけれども。

【山崎専任者】

何パーセントですか、70パーセント、何パーセントですか。

【片山参事】

この予測の中では移行率を50パーセントに引き上げるというふうに見込んでいますけどね。

【山崎専任者】

50パーセントにしても……。

【片山参事】

抽象論の話はわかるんですけど、多いんじゃないか、少ないんじゃないかと気持ちはわかるんですけど、具体的に何がどうなって多くなるか。

【山崎専任者】

抽象論じゃなくて、今、実際に書いてあるじゃないですか。今、岡村部長もちゃんと70パーセントは今も処理してるんだと、不燃のほうに入れて。言っているじゃないですか。

【片山参事】

今の話ですよ。

【山崎専任者】

ですから、それが1,200トンぐらいになるんですよ。

【坂本代表者】

山崎さんはホームページで話しているから、実際に見てるから。

【山崎専任者】

それはしようがないじゃないですか。小平市が出した公式な一般廃棄物処理基本計画ですから、その14ページに書いてある。

【片山参事】

それが5,000トンになるわけですか。

【山崎専任者】

そうはならないです。だから、分別する硬質プラスチックの70パーセントがごみとして出されていますよと書いてあるんです。それに対して岡村部長は、実際そうだという話をされているから、だから、実際70パーセント、500トンぐらいをリサイクルセンターでやっているのが30パーセントだと計算すると70パーセントという1,200トン弱になるんです。それと軟質プラが本来は可燃に入っているものが年間300トンも不燃物に入っているんです。そうしますと両方で1,500トンになるでしょう、おかしいというやつが。それプラス予測の3,600トン足せば5,000いくじゃないですか。それだけはっきり答えをいただいているんだから動かしようがないでしょう。それ以外に何かこれは間違っていたんだというんだったらわかりますけれども。

【岡田専任者】

ちょっといいですか、東大和の答えをちょっと見ていただきたいんですけど、資源物のところを見ると小平市さんは……。

【邑上会長】

実績、予測。

【岡田専任者】

3ページと4ページ、実績、予測になるんですけどね。

【邑上会長】

予測ですね。

【岡田専任者】

資源物のところを見ると東大和市は大体1万トンで推移している。小平さんですね、人口は18万8,000、19万人。東大和は4ページを見ますと資源物5,000トンですね、そうすると人口が今は9万として半分なんです。そうすると全体の人口に対するごみの量はほぼニアリーイコールかなと。いわゆるペットボトルのところを見ますと、小平さんは543、549、大体540トン、4ページの東大和を見ると220トン。そうすると人口を倍にしても小平さんのほうがちょっと多いんです。生活レベルで考えたときに小平と大和とそんなに差はあるとは思えない、ほぼ同じような生活形態とすると、これが実績値ですよ、少なくとも。27年度は予測値ですか。そうするとこの数字そのものが東大和が少ないのは店頭回収にいつている部分が多いから相対的に少ないのかと思える。ということになると先ほど硬質プラスチックであるペットボトルが7割粗大の方についてしまっている、それはちょっと私はおかしいと思って聞いていました。硬質プラスチック、ペットボトルは回収側に回っているんじゃないのかなと。

【山崎専任者】

これはペットボトルの話じゃないですよ、書いてあるのは、硬質プラの話ですから。

【岡田専任者】

ですから、回収するのはペットボトルだけですよね、回収するのは。

【山崎専任者】

これは軟質プラと硬質……。

【岡田専任者】

総排出量に硬質、容器包装以外のものは全部燃やしていますから、容器包装以外のプラスチックは全部燃やすわけですよ。それはトータルごみの量で見たときにはやはり東大和と小平はほぼ倍ですから、4万9,000トンと2万1,000トンですから、トータルでは数字の細かいところの違いはあるかもわからないけど、総量で見たときには東大和の倍が小平の数字で見れば、そうめちやくちな数字にはならないと私は理解しているんです。いいですよ、それは。

【山崎専任者】

説明をしてしっかりと70パーセントがごみで出ているということをはっきりとしてくれればいいんじゃないんですか。

【岡田専任者】

ですから、少なくとも硬質プラスチックの中で容器包装以外のプラスチックを燃やすということでもいいんですね、燃やさざるを得ないわけですから。硬質プラスチックの中で容器プラスチック。プラスチックがあって軟プラがあって、硬質、要するに容器包装のやつは資源に回しますけど、そのほかのおもちゃだとか何か、容器包装以外のものは全部燃やすと形でいいんですよ、そうですね。その70パーセントというのは容器包装じゃなくてプラスチックの部分。

【山崎専任者】

容器包装ですよ、分別すると書いてある。

【岡田専任者】

ということはここで見ると70パーセントもいっているはずないです。このデータから見ればプラスチックも容器包装の部分も硬質プラスチックはほぼ東大和と同等のレベルで回収、資源化されていると理解したほうが、僕は妥当だと思うし、70パーセントも燃やす方向にしている発言そのもののほうがおかしいと理解したんです。私の言っていることはおかしいか。あとは修正してください。

【山崎専任者】

これが、そんなに極端に違うというんだったら、これももう1回確認してもらえればいいんじ

やないんですか。

【岡田専任者】

そうです。

【山崎専任者】

岡村部長が70パーセント実際にごみとして出していますという話なので。

【岡村部長】

少し補足しますけれども、組成分析というのは全てのごみ集積所でやるわけじゃないんですね。季節もオールシーズンでやるわけじゃないんです。時期もピックアップして、場所もピックアップしてやります。偏りがあるということをまず。その中でここで私どもが市民に言っていたのは資源されるべきものが資源されていませんということを強調したいわけです。その根拠となるものでピックアップした集積所のところの、その中でも一番一般的なものを選びますけれども、その中で出た結果をここで示したわけです。ですから、全体の量がこれで掛けるイコールというふうには見ていませんので、今山崎さんがおっしゃったことの量的なことは再度しっかりと根拠を出して説明しますよ。時間をいただきたいと思います。

【山崎専任者】

確かに組成分析は年4回しかやっていないと思うんですけれども、それを言い出しちゃうと、もともと1,600トンという軟質プラも組成分析しかやっていないわけですよ。それも結局当てにならないということになっちゃうじゃないですか。要は4回しかやっていないということになると。そうすると岡村部長が言っていることと軟質プラを予測する方法が違っていているんじゃないかですかという話になっちゃいますよ。

【岡村部長】

ですから、全体のその量については今手元に資料がないので、ここで先ほど山崎さんがおっしゃられた記述の根拠みたいなもののデータがありますから、それに基づいて確認をして説明をいたしますということを申し上げています。

【山崎専任者】

いつのデータ、いつの組成分析のやつなのか、何回やったやつ……。

【岡村部長】

それも含めて説明しますので、年度は、26年3月ですから、約1年ぐらい前です。25年の4月から5月、それぐらいだったと思います。

【森口専任者】

今の組成分析のそれを聞くのとは別に、こちらのほうに予測してあるのにも組成分析の結果を

反映して予測していると思うので、こちらで使ったのもいつのデータを使って予測してあるのかを教えてください。今日じゃなくて結構です。今、山崎さんがすごく組成分析の結果を気にしているものは小平市のホームページにある基本計画、一般廃棄物のやつですよ。今ここに書いてあるのは、今、片山さんが一生懸命ここに書いてあるのはちゃんと計算式で合っているんだとおっしゃったのも多分組成分析の結果をもとにして50パーセントということで計算されているということなので、そのときの組成分析はいつのを使って、基本計画に書かれている70パーセントがごみとしてされていると書いてあるのはいつのものだったのかというのを両方とも組成分析を調べた日を教えてください。

【山崎専任者】

ホームページに載っていますよね、組成分析の結果は。何日分、何日分というのを教えてもらえばいいんじゃないですかね。それで計算したのがこうだよというのを。

【岡田専任者】

東大和と小平さん、東大和はこれで容リプラも分別しているからほぼ理想の形が出ているのかなと。3ページの容リプラの27年度、543という数字がありますよね。わかります？543、ペットボトル、583。それを右に見ていくと、平成31が多いな、小平さんですね、2,117、ここで始まりますよと。東大和を見ると容リプラ880、ペットボトル208。人口比で考えると2.ちょっとですから、小平さんで出している2,117というのはほぼ射程内に入っている数字かなと。過去の数字はいろいろあるかもわからないけれども、前に向かってはそれなりの検討はされているのかなと。別に擁護するわけでも何でもないんですけども、そうめちゃくちゃな数字を出しているわけじゃないのかなと私は考えます。ですから、それも含めて検討していただければと。再度検討して報告していただければ、それでいいですね。

【山崎専任者】

ついででいいですか。今、岡田さんが言われたように、東大和と小平、それほど出してるものはそれほど変わらないんだから大差ないだろうという話でしたけれども、確かに可燃物なんかを見ると平成31年からずっと小平市さんが一番低くて、多いのが東大和だったか、武蔵村山さんだったかわからないですけども、それでも7、8パーセントの差で入っているんですね、一番多いのと少ないので、一人当たりの排出量ですね。けども、先ほど言いましたけれども、不燃物は東大和の2倍出ているんですね、一人当たり。粗大ごみも多いんですよ、すごく。やはり2倍近く少ないところに比べてですね。この辺はすごく離れているような気がするんですよ。これもしっかりやらないと、もし少ないほうに小平市が取れんしていくとすると、不燃物だけで年間2,000トン、粗大ごみが500トン、トータル2,500トン、それこそ「だけ」じゃなくて

「も」になっちゃいます。そうするとこれが減っていくというか、少ない方向にあっていくようなことになれば、それこそ粗大・不燃処理施設だってもっと少ない小さいあれにもできますし、ちょっと誤差の範囲と言えないんですね、この計画値を見ていると。人口どうのこうのと言いますけれども、それは一人当たりですから、動かしようがないですね。それを目標を半分にするようなことを考えると同時に、やはりなぜ差があるのかという要因をしっかりとやらないと、結局このまま予測値だ、予測値だって、そのまま終わっちゃうんじゃないのかなという感じがするんですよ。まずは要因をしっかりと検討しないといけないんじゃないのかなと思います。ぜひ、あの……。

【片山参事】

具体的データはお示ししていますし、必要なものをお示ししますが、3市が同じじゃないといけないわけですか。

【山崎専任者】

いえ、そうじゃないですよ。

【片山参事】

そうじゃないですね。3市それぞれに施策を打っておりますから、それはその施策は3市が勝手に決めているわけじゃなくて、市民との対話の中で、それから、こういう市民との協議会、審議会を設けてそこで承認を得てやっている事業ですから、同じということはないわけです。出しているものは確かに大して変わらないと思いますけれども、それぞれ比重が違うところで努力されていますので、今回はこのペットボトルと容器包装プラスチックについては統一しようということで動いていますので、そういうことは理解してほしいと思います。何でも同じというわけではない。

【山崎専任者】

何でも同じとは言わないですけれども、ただ、これが施策による誤差の範囲なのか、2倍になっちゃうのが異常じゃないのかということなんです。異常と思ったら何か考えなくちゃいけないんじゃないですか。異常じゃないんですか。

【白倉課長】

不燃、粗大のところですよ。確かに東大和市さんは非常に少ない、小平は多いというのはあります。そのあたりはやはり小平市は何で多いのかというのは当然山崎さんおっしゃっているように、我々としても分析していかないといけないというのは事実です。当然東大和市さんのほうで減らせてる結果もありますから、これはあくまでも我々は今推計値ということで出させていたでいていますが、おっしゃられるように今後の課題としては減らしていくというのは当然のこと

ですので、そのあたりはしっかり分析した上で今後新たな取り組みで減らせるようであれば、その辺はしっかりやっていきたいというふうには考えています。

【坂本代表者】

私のほうからよろしいでしょうか。今、岡村さんのご説明でもよくわかったんですけども、基本的には、なぜそういう問題が出るかと。山崎さんも遠慮しながらおっしゃっていると思いますが、ごみの完全な有料化による分別をしていないからそういう数量が出てくると思うんですよ。だから、岡村さんがおっしゃっているのはわかりますよ。完全に分別していなければ、そもそも市民としてもどう出していいかわからないじゃないですか。東大和の場合にはかろうじて遅ればせながら有料化に取り組んで、今は軌道に乗って分別収集がかなり進んでいます。だから、おもちゃ類はプラスチックというカテゴリーではないんですよ。不燃ごみで私たちは出させてもらっています、子供のおもちゃとか。だから、そういうので徹底的に分別した上で有料化によると皆さんそれに従いますので、有料化していないとそもそも話にならないんですよ。

例えばコンピュータのプログラミングをやるときでも前処理が不完全だったらあとはめっちゃくちゃになりますよね。だから、ソースプログラムを組むときにきちんとしたデータが入れるように分析されていないと、前処理もしないで、さあ、いくぞといったってやり始めたらもうめっちゃくちゃで、こんなの1,000万使ったって、1億円使ったって使い物にならないというのがざらなんですよ。だから、よくコンピュータ用語で言われますけれども、KKDD法、経験と勘と度胸と妥協ということで経験と勘がきちっと整理された上でないと、こういうのに取り組んじやだめなんです。数字ばかり踊っていて、私たちは何のためにここに来て、数字がどうたらこうたらという話じゃないんですよ。我々はおそらく皆さんこんなものは、3市資源物処理施設なんておそらく全国にもどこにもないような地域につくるということ自体に納得していないわけですから、ここら辺で数字がどうたらこうたら踊ったって何も進まないと思います。以上です。

【田中代表者】

栄三丁目の田中と申します。今、大勢の方が予測値について話していますけれども、あくまでも予測値です。誰もわかりません。例えば、この間、日の出のごみ処理施設に行ってきましたけれども、そのときにごみ処理施設の人の話では、まだごみの埋め立てについてはこの場所で数百年もつという話をしてくれました。でも、そのときにたった1つ危惧していたこと、地震があったらだめですねと言っています。このごみ処理の問題って、非常にタイトロープ、ロープを渡るようなものなんですよ。

各家庭から先ほど小平さんも言っていました。各家庭に言っているんだけど、出してくれない、ちゃんとしてくれない。これは本当に市民の側の問題です。まずごみについては、という

のは私も毎日ごみを出しています。皆さんもごみを出しています。出していない方がいたらここに出てきてもらいたい。ごみを出しているんだからそれをどうしようかという話なんですよね。その出たごみをどう処理していくのかという話をここでやっているわけじゃないですか。ですから、予測値の数字を悪いですが、重箱の隅をつつくようにやっていってもいい結果は出ません。

ですから、もっと根本、大きな大きな目でみんなで見えていって、例えば桜ヶ丘のあの場所にくっついていいのかという問題。もっとほかにもいい場所ないのかという問題も考えられるでしょう。

でも、それだけではないんですよね。例えば明日本当に突然地震が来たらごみが物すごい量出ますよ。誰も処理できません、福島を見てください。福島で出た放射能汚染物質をここへ持っていきましょうといったときに賛成する人は1人もいないでしょう。ですから、それと全く一緒なんです。予測値の数字をどれだけ言ったって予測値なんです。神様以外わかりません。それから、明日地震が来るかもしれないし、明後日来るかもしれないという状況の中で、日の出のほうではごみ処理のことを計画してやってくれています。ですから、私たちがやらなきゃいけないことは予測値をどうするかという問題を幾ら話し合ったって予測値はあくまでも予測値なんです。誰も正確な数字を見えません。ですから、よりそこに近づける、どうしたら本当の数字が出てくるのか実績値しかわかりません。その実績があやふやであるというのは一番困りますから、もう一度実績はこうです、この上でここで考えてくださいという話をしていくべきだと思うんです。実際に大和でどれだけ出ているのか、小平でどれだけ出ているのか。これから処理施設をどうすれば本当にいいものができるのか、変化できるのか、みんなが各家庭でごみを出すときにどれだけ変われば減らせるのかということを考えていくべきだと思うんです。ですから、本当に3市の予測と実績、これもすぐ変わりましたけれども、本当に明日いつ地震が来るかわからないときに、こういう状況でどういうふうな形で施設をつくるのかという話をしっかりと聞きたいなと思っています。本当に先ほど言ったとおり、放射能汚染物質をここへ持ってきたら困りますよというのは小平も村山も東大和も全員同じことが言えると思うんです。ぜひそういった意味であまり隅っこの、もちろんデータとしての検討は必要かもしれませんが、できるだけ真ん中のぼたもちを見ていただいて、重箱の隅をつつくという形はやめていったほうがいいかな、時間をもったいないような気がするんですよ、老婆心ながらそういう意見です。

【邑上会長】

ありがとうございます。私、邑上のほうから、要望と言うんですかね、今回グラフを事前に配っていただきまして、今日グラフの話をする予定ではいたんですが、時間がもうないのでできないと思うんですけど、皆さんも表を見ていろいろお話をしていますが、今、すごく比較しにくい状態ですね。量に関しては当然人口の問題があるので、人口で割ったりしないといけないんです

けれども、その下の原単位というのが人口一人当たりなので、傾向がすごくわかりやすい値だと思います。今、すごく比較しにくいので、こう見ないといけないので、だからどこが半分だとかいうのもすごく見にくい状態なんです。グラフのほうは各市で積み上げた状態のグラフになっているので、不燃物がどうなのかというときには、よく色を見れば何となく2倍か半分かみたいになるんですけど、各市の傾向とかは比較しにくい状態だと思うんです。なのでここは工夫したいなと思います。ちょっと縦に積んじゃうとそういうのでしか見えなくなっちゃうので、各それぞれのごみの傾向は見にくい状態だと思います。ですので、ちょっと工夫したい。後でどうやるかは話したいですけど、工夫したいなと。

今も確かに予測値自体の細かな数字はつづくのはどうかというのは確かにそのとおりだと、その点ではそう思います。ただ、この予測値をもとに施設の計画をしているということであると、かなり大きな話だと思っています。その予測値自体がなぜこうなるのかということに対しては、どういう施策を打っていくのかで変わってくるであろうと。正確にはわかりませんが。もしあまり原単位を含めて減量になっていない、人口減のとおりだったりとかすると、あまり市民としては納得がいかないというふうになるのかなと思います。それが今月の12、13で説明会がありましたけど、その際にも各市の市民の方から出ていた要望、どういうことをしてごみを減らすということを打ち出しているんですかというところにつながってくるのかなと思います。

私の個人的な質問というか意見です。今回可燃ごみ、不燃ごみなどの話もしていますが、どうしてもギャップがあると思っています。何かというと今ここでお話ししているのは廃プラ、資源物処理の話なんですけど、それはそれぞれは3市です、これは組合ですみたいな話になっているんですけど、これは片山さんにちょっと前にお聞きしてなるほどと思ったんですけど、あくまで3市で共同処理するものしか共通にならないんですね。ほかのごみの分別の話とかは衛生組合でやる話じゃないという、後ほどお話ししてもえばいいんですけど、私は、ちょっと違和感を覚えているのは、3市で共同で焼却したりとかいろいろするので、基本にごみの分別とかごみに対する政策は共通じゃないとおかしくないかなと個人的に思っています。ただ、今現状の衛生組合というのは3市のごみ処理、ごみ行政を全部束ねていて、決めているところではないというお話だったと、私も理解不足だったのでいろいろ聞いたらそういう話だったので、なのでいろいろ話をしてももちが明かない状態なのかな。

ちょっと衛生組合が管轄している業務と各市がやっているものと簡単にちょっと説明してもらっていいですか。そこが私も含めて理解できていなかったもので、話してもそれはこっちではないですという話になるのかなと思うので、皆さんどうですか、私はそういうふうに思っていて、何でごみの有料化も含めて一緒にやらないんですか、ごみの分別のルールとかも一緒にしないんで

すか、それは各市です。こちらは資源物の話とか焼却の話とかということで別なんですみたいな話だったので、言われたら何となくわかったんですけども、それって衛生組合が一番トップに立っていて、それを各3市で同じことをやるほうがわかりやすいし、いいんじゃないかなと思うんですね。現状はそうじゃないという話だったので、ちょっとそこを私の口からだと正しくないと思うので、簡単に立ち位置、やっていることがそれぞれ分担されてあると思うんですけども、ちょっと簡単にお話ししてもいいですか。

【片山参事】

わかりますが、簡単には説明が難しいんですけども。

【邑上会長】

ざっくり。

【片山参事】

ざっくり。廃棄物行政はかねてよりご説明しておりますように、自区内処理、東大和市であれば東大和市の中で資源化をしたり、焼却をしたり、最終処分をしたりということをしなくちゃいけないんですが、なかなかそうはいかないということで、3市が協力してやっているのがごみ処理施設です。衛生組合はこのごみ処理施設の設置及び運営を仕事にしています。そのさらに下流の資源循環組合というのが日の出にあって、埋め立てとエコセメント化事業をやっているんですけど、こちらは25市1町が協力してつくっている施設です。ですから、本来、市にある一連の仕事のうち、ごみ処理施設の設置及び運営と最終処分場の運営については違う団体がやっているということで、そういう役割分担になっています。

それから、分別基準の統一についてですけども、構想でこれをお示ししているんですけども、今回プラスチックとペットボトルの施設をつくりますよね。そのときには資源化基準を統一しましょう。それから今度、ごみ処理施設の整備に向けては、ごみの分別基準も統一しましょう。若干今、3市が異なっているところがありますので、統一しましょうということで構想で示しておりますので、今後さらに今、個別に3市がそれぞれ努力してきたリサイクルや資源化やごみの処理を3市スクラムを組んで、より協力して、共通化するべきところは共通化してやっていこうという動きで動いております。ちょっとしっかりとした説明じゃないんで、補足があれば松本課長、ないですか。

【邑上会長】

今のお話で何となくは、多分今まで知っている人は別ですけども、知らない人は何となくわかったかもしれないですけども。

そもそも今日やろうと思っていたことは1つもできていないんですけども、もう1個の資料

のほうやりたいです。今日はもう終わりですけれども。

すごく大前提な部分だと思うんですよ、今の話。そこをちょっと資料、どこかに載っていれば先ほど規約にある、規約だと文章でわからないので、位置関係とか登場人物含めてちょっと簡単な説明みたいなものがあるとすごくわかりやすいかなと思うので、次回かその次、一旦資料化していただきたいと思うんですね。ちょっと相談させていただければ。

その衛生組合だったり3市の位置関係、先ほどの25市、26市でやっている話などがわかると、少し理解が進むんじゃないかなという気がしますので、そちらのほうは資料化をしていただいて、説明していただいた上で、多分こちらの話に進んでいったほうがいいのかと思います。ですので、3市それぞれこの部分は3市で、それぞれですという話になると、何でこれはやらないんですかという話をしていても、各市なのでという話になっちゃうところのギャップがすごくあるなと思っています。なので次のもう1個の資料、1月31日の資料の1は今日ではできませんけども、この話を次回することになると思いますが、この話の前に大きな構成がわかるような、できれば次回ですね。

【片山参事】

概念図ですね。

【邑上会長】

位置関係というかですね、もうちょっと示してもらえると理解する上で助かるなと思います。もともと話したように8時までということでしたので、今日はこれで終わりにしたいと思います。まだこの資料、予測などの数値とかわからないところもいろいろまだあると思いますけれども、今日の時点ではこれで終わりにしたいと思います。ちょっとグラフの表現についても出せなかったんですけども、それぞれ3市の比較をしやすいようなグラフなり表なりということをちょっと相談して、可能であれば次回出してもらいたいと思うので、それは相談したいと思います。

次回の連絡協議会は予定どおりですけれども、2月13日土曜日午後6時半から桜が丘市民センターを予定しています。よろしいでしょうかね。

【坂本代表者】

会長、1つだけ。今、ざっくりとした形で鳥瞰するには、私も小平市長、小林さんが言っていた焼却炉は小平市にあってということで、ちょっと疑問があったので、よく調べましたら衛生組合格約というのがあるんですね。これは全国全部あります。そういう規約がありますからここでは何をすべきか目的規定もありますので、それを皆さんホームページでとれますので、それをご覧になったほうが組合としては何をすべきかというのがわかると思います。それから、資源物

については自区内処理ってありますけれども、これは法律でも何でもありません。原則として自区内処理ですが、基本的には各自治体でやることになっておりますので、それをご覧になれば、ここで長い時間協議する必要もないかと思えます。以上です。

【邑上会長】

それでは、本日。

【川崎代表者代理】

すいません。グランステイツ玉川上水の代表代理の川崎と申します。いつも発言しないんですが、今日は発言準備をしてきたんですが、施設の姿の中で、過去の協議会の中で全く話し合いの項目に上がってこなかった、施設から発生する低周波音の件について、この会議が始まる前に参事のほうには質問内容を紙でお渡ししてあるんですけども、ぜひ次回皆さんに回答がいただけるようにしていただければと思います。よろしくお願いします。

【邑上会長】

今のお話は施設にあるモーターみたいな回転物からある一定周波の周波数が低いものが出てくると、いろいろ健康被害があるんじゃないか。例えば風車とかありますね、風力発電とかね、そういうのがあるんじゃないかという質問なんですね。

【川崎代表者代理】

そうです。

【邑上会長】

わかりました。それはまた次回ということで。手短に。

【山崎専任者】

クロスフォートの山崎です。1月17日、ちょうど2週間前の9時半からこの場所で連絡協議会あったと思うんですけども、その中で、12月に東京都に出した請願の審査の内容の発言を私しましたけれども、家へ帰ってノートにメモしてある内容をちょっと確認しました。そうしましたら、発言は都市整備局の担当者の方が住民の合意が必要だと、自治体に求めていくと発言されている。もう1点は、住民の同意だとか理解というのは当然必要だと発言されているという話を私がしたんですけども、家へ帰ってみたら、そういうメモがありませんでした。この場をかりて訂正させていただきたいと思えます。メモ、そのノートあるんですけども、またこの場でこういうメモしたということと言っても、近々会議録が出るということらしいので、最終的には、会議録を参照していただきたいと、そういうふうに思えます。どうも申しわけございませんでした。間違えました。

【邑上会長】

前回の発言はちょっと勘違いしていた部分があるよということですよ。訂正ということですね。わかりました。

【岡田専任者】

白板に書かなくてよろしいですか。いっぱいになっちゃったので、録音では残っているでしょうから。

【有山課長】

武蔵村山市です。すいません、時間過ぎちゃって申しわけないですけど、前回17日の日曜日の協議会で森口委員から、11月14日の協議会の中の話が出ていたことなんですけど、武蔵村山市から回答してくださいね、ということなんですけど、今ここで口頭でさらっとでよろしいですか、それとも次回……

【森口専任者】

議事録が残るんで口頭で結構です。

【有山課長】

わかりました。お話があって、地元に戻って担当のほうに確認して、内容が一般廃棄物をたしか武蔵村山市への市内の中間処理施設に搬入するための協議の話があったときに、武蔵村山市の担当課、今はごみ対策課となっていますけど、そちらのほうで断ったケースがあるのかなというような内容だったのではないかと思いますけど、申しわけない、ちょっと古いことはわかりませんが、ここ4、5年は担当確認したんですけど、1件もないというふうな答えでありました。以上です。すいません。

【邑上会長】

前の宿題でしたよね。すいません。岡田さんのほうで記載していただきまして。

【山本代表者】

センターの山本です。今日お話を聞かせていただいて、細かいところはいろいろあったかと思うので、ちょっと私も理解が追いつかない部分もいろいろあったんですけども、その中で、人口の話が冒頭にあったと思うんですけども、一般的な市民感覚としては、もともとの今この計画していただいている内容が、平成21年度とか23年度とかの人口の推移のデータをもとに、何かごみ処理の何かそういうのもプラスアルファして試算しているというお話だったんですけども、坂本さんかな、のほうから、5年とか7年たつと随分変わってくるということもあるので、やはり新しい情報を入れて、もう一度数値化してみてもどうかと、予測してみてもどうかというお話があったと思うんですけども、私もそれは本当に同意見で、すごく根幹にかかわるとても

大切なところですので、最新の人口推計値というのを織り込んで、先ほど山崎さんがおっしゃられた70パーセント云々とかも含めて、もう一度その予測値というのを出していただくべきではないかなと。一番根幹にかかわる一番大切なところだと思うので、ちょっとお願いできないかなと思っております。最新の人口推計はどの数字を用いるのかというのは、ちょっと私にはわからないんですが、と思っています。

【片山参事】

現状での最新の、先ほど申し上げましたけれども、これは5年スパンなんですかね、5年スパンで出している数字だと思うんですよ。小平市が平成24年6月、東大和市が23年8月、武蔵村山市については平成21年、平成21年だから新しいのがあるんですかね。一応この策定段階では最新のデータをいただいて、それをつくっています。

【山本代表者】

だけど古いのもあるかもということなんですかね。

【片山参事】

そうですね。これ確認してみましょうかね。

【山本代表者】

平成21年度というのが武蔵村山市さんなんですかね。

【片山参事】

はい、平成32年までの予測が出ていますけども、ここの、そういうことにしましょう。

【山本代表者】

大和さんと小平さんは最新の情報を用いているだろうということですよ。

【片山参事】

はい

【山本代表者】

わかりました。

【阿部専任者】

すいません。それなんですけど、やり方がコーホート要因法というやつで、東大和市だけは僕、資料を目を通したんですが、エリアを細かく分けていまして、エリアも分け方によって答えが変わるんです、容易に変わります。それらの要因が計算それぞれをして合算していると思うんですけど、そうすると分け方によって答えが変わってくるということ、普通はこういうやり方だと検証するんで、それが全くないので、やり方自体が問題があります。なので新しければ正しいかというと、新しくデータが増えるので、近くはなるんですけど、ほかの市のほうは資料を見ていな

いんですけれど、東大和市の細かく分けたやり方だと、誤差要因が大きいので、信頼性が低いので、普通は検証が必要なんですけど、それをやっていないので、物すごく不安、信頼性がない。

【片山参事】

予測を検証するんですか。

【阿部専任者】

エリアを分けているんですけど、分け方で答え変わるので、普通それをやると、それで全体ではどうかとかいろいろやって、推計値はどういうふうに誤差があるというのを普通やるんですけど、それを全くないので、これは外注していますけど、その外注さんが市役所の方が都合いいだろうと思うような結果を出そうと思ったら容易なんです。それに近い仕事が昔あったので、あの市役所のみなさんの……

【片山参事】

おっしゃっていることがよくわからないんですけども、各市の統計部局がつくっている問題ですから、私どもでつくった数字ではございません。

【阿部専任者】

いいえ、衛生組合さんに言っているのではなくて市役所の方に言っているんですね。

【坂本代表者】

しっかりした市は、自治体は市報に人口というのは出すはず。だからそれもできてないのかというのを阿部さんはおっしゃりたいんですよ。それを拾ってこない、何年と言ったって、どこの数字を拾ったかわからないじゃないですか。予測値というのは、基本が間違っていれば全部予測は変わってきますからね。だからそれをおっしゃりたいんですよね、阿部さん。

【阿部専任者】

新しいのと、それからやり方自体が非常に誤差を生み出しやすいので、それをそのまま受け取ると全然答えが変わるものを、変わるやり方をされているので、信頼性の検証が全くないデータを東大和市のほうでは出していますということは確認しました。

【邑上会長】

わかりました。今日は一旦終わりにしたいので、またちょっと次回。先ほどちょっと口頭でありましたけれども、各市がそれぞれ何年の資料で、どれぐらいのスパンで資料を更新しているのかというのは確認しているわけじゃないですか。今、先ほどの阿部さんの指摘は、なかなかいい指摘だと思うんですけど、推計値って出てくると、ああ、そうか、そうなんだって思っちゃうんですけど、そもそも推計ってどうやっているのかというその手法とかやり方の話を言われているんですね。少なくとも東大和市の資料見た限りではあまりいい推計の仕方ではないんじゃないか

という指摘だと思います。ちょっと今だと皆さんわからないと思うので、可能であればその辺の内容がわかるようなものを何か提示してもらったり、それぞれあったほうがいいかもしれませんが、それで確認したほうがいいのかなと思います。ちょっとその人口の推測の部分はわかりませんが、シミュレーションというのはやり方によって幾らでも値が変わっちゃうというのはよくある話なので、その前提とか条件とかいろいろわからないと、確かに信じていいかというのは疑問ですという話、今だとまずいでしょうという話だったので、それは確認したほうがいいかなと思います。今日はここで終わりにして、可能であれば次回、その辺、ここがおかしいとか、こうすべきじゃないかとあれば、できれば提示していただければと。それに対して反論等があれば、またやっていただければいいかなと思います。ですので、今日はここで終わりに。

【岡田専任者】

衛生組合さんがしゃべる話じゃないですね。各市の……

【邑上会長】

衛生組合じゃないですよ、各市ですよ。

【岡田専任者】

そうですね。そのデータをもとにしてやらざるを得ないんだから、それを組合さんに言ったって……

【邑上会長】

各市の、少なくとも東大和市の資料はおかしいのではないかという指摘、各2市はまだ……。

【岡田専任者】

考え方としておかしいと言っているんで……。

【邑上会長】

結果がおかしいのではないかという、やり方がおかしいと結果もおかしくなるじゃないかという話ですね。

【岡田専任者】

それを議論して、実際の、まあ、いいです、あまり言うと。それはできます、そういうことが？

【松本課長】

いや、今すぐはできません。

【岡田専任者】

できませんよね。

【邑上会長】

なんで？ 結果新しく出すとかというのではなくて。

【松本課長】

ただ、今のご質問からいくと、要するにこのもの自体がいいかげんだというご指摘なので……。

【邑上会長】

まあ、いいかげんなのではないかという。

【松本課長】

ということですよ。ただ、それをいいかげんと言われてしまって、はい、そうですかと私は思っていないものですから、現状直近の統計は使わざるを得ないので。

【邑上会長】

それはそうですね。

【松本課長】

そのところは先ほど他の委員さんからもお話があったように、あまりそのところを重箱の隅をつつかれてしまってもこの事業自体に影響を来すというがあるので、私どもとしては、要するにどういう手法で推計を立てたというその根拠は当然次回持ってきたというふうには思っていますが、それ以上のことは考えておりません。以上です。

【阿部専任者】

すいません。推計報告はわかるんですけど、エリアの区切り方によって答えは容易に変わりますという方法を使っておられて、信頼性の検証はないので、つくりたい数字はできていて、おそらく外注しているので、市役所の都合のいい数字につくる。

【岡田専任者】

いや、でも、この数字の部分は、ごみに関してだけじゃないですよ。市政全体で使う数字ですから、ですからこういうことを言っちゃあれなんですけど、ここでの場というのは、そういう指摘は無論結構なんです、当然必要なことなんですけど、本来ごみの3つの施設をどうするかということ、原点は人口で、それもわかるんですけどね、そこだけ追求しちゃうと、本来話すべきことがちょっとずれてきませんか。

【阿部専任者】

ずれる、答えられないと思うので、多分答えはこないと思うんですけど、ベースになっているところは非常に怪しいのが確認できたという、そういうことです。

【岡田専任者】

そういう専門家の方が見れば、そういう形だということですよ。

【阿部専任者】

そうです。

【岡田専任者】

各市でこういうことをやっているという回答をいただくという、それ以上は理解はできても納得はできないというそういうことですね。

【阿部専任者】

いえ、おそらく理解はできないので、説明ができないので、時間使ってもこれ以上無駄だと思います。なので一応示していただいて、そういうのは多分聞いても答えられないと思うので。

【岡田専任者】

じゃあ、ここでは一応、各市の方法論について説明をしていただくということですか。

【阿部専任者】

そうですね。

【岡田専任者】

それを議論してもしょうがないと思いますよ。

【阿部専任者】

多分議論はできないと思うので、示していただくだけで。

【岡田専任者】

いいですか、一応小平さんと村山さんもいいですか。やっているということ、それがいいとか悪いとかというのは、また別問題だと思いますから。

【邑上会長】

人口自体はかなり重要だとは思いますが。その上がり傾向か下がり傾向か、または人数の絶対値がどうなのかというのがごみ量に直結しますので、掛け算するので、ですので、そういう意味ではすごく重要ですが、もちろんこのためにその数字を出しているとは思ってません。それはだから、今ここに来ている方がどうこうしてるではないでしょうか。ただ、その推計をしている部署、そこからの外注している結果の部分にちょっと疑いがありますよということがわかればいいのかと思うんです。そういうことですね。

【阿部専任者】

資料を見て理解はできないと思います。計算しないと結果が出てこないです。

【邑上会長】

わかります。いろいろなシミュレーションも境界条件とか変えるだけで全然変わっちゃったりとか、メッシュの切り方で違うとかいろいろありますので、その辺はわかります。今日のところはこれで終わりにしたいと思いますので、次回またよろしくお願いします。どうもお疲れさまでした。